

2023年3月期 決算説明資料

株式会社 チノー
(東証プライム : 6850)

1.2023年3月期決算

- 1) 決算ハイライト
- 2) 業績サマリー
- 3) 営業利益増減分析
- 4) 四半期別連結売上高の推移
- 5) セグメント別の業績動向
- 6) 連結貸借対照表
- 7) 連結キャッシュ・フロー
- 8) 地域別売上高

2.設備投資・減価償却費の推移

3.株主還元

4.トピックス

5.FY2022の業績予想の達成状況

6.FY2023の業績予想

1.2023年3月期決算

1) 決算ハイライト

2023年3月期 連結業績

受注高



27,829百万円

前期比

8.9%増



売上高



23,793百万円

前期比

8.6%増



受注高は、特に脱炭素関連（燃料電池評価試験装置や水素のエネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置）の需要拡大により大幅に増加。

売上高は、当社顧客（自動車関連分野、電子部品関連分野等）の設備投資が堅調に推移したこと、および脱炭素関連の設備投資拡大により増収。

<利益面>

営業利益



2,018百万円

前期比

34.6%増



経常利益



2,294百万円

前期比

31.5%増



当期純利益（親会社株主に帰属）



1,536百万円

前期比

46.2%増



利益は、増収効果および計装システムの原価率の改善等を主因とし各項目とも増益

2) 業績サマリー (1)

◇ 連結業績

(百万円)

	FY2021	FY2022	対前期増減額	対前期増減率
受注高	25,557	27,829	2,271	8.9%

	FY2021	FY2022	対前期増減額	対前期増減率
売上高	21,908	23,793	1,884	8.6%
売上総利益 <利益率>	7,076 <32.3%>	7,869 < 33.1% >	793 <0.8p>	11.2%
営業利益 <利益率>	1,499 <6.8%>	2,018 < 8.5% >	518 <1.7p>	34.6%
経常利益 <利益率>	1,744 <8.0%>	2,294 < 9.6% >	550 <1.6p>	31.5%
当期純利益 (親会社株主に帰属) <利益率>	1,050 <4.8%>	1,536 < 6.5% >	485 <1.7p>	46.2%

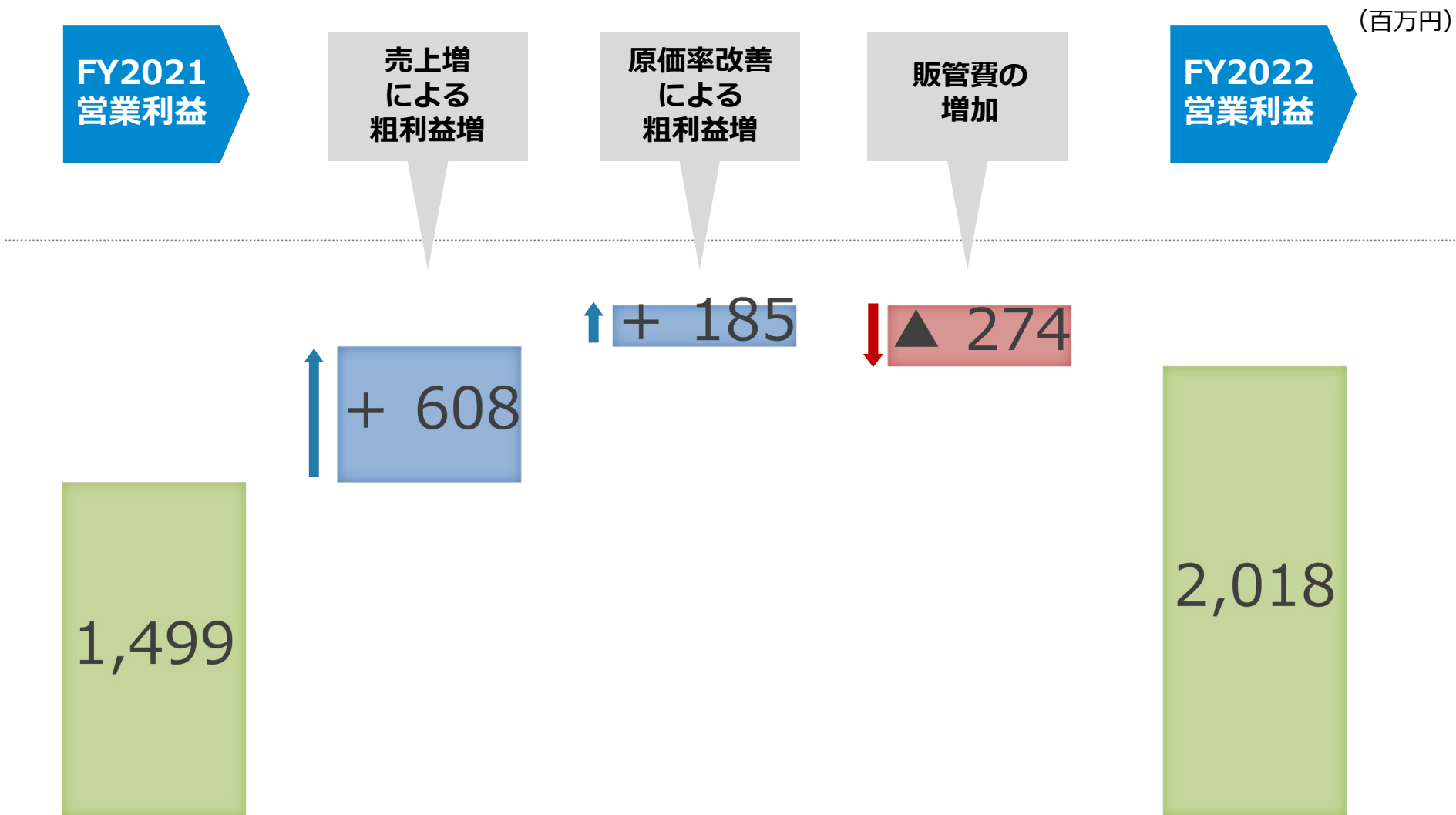
2) 業績サマリー (2)

◇セグメント別業績

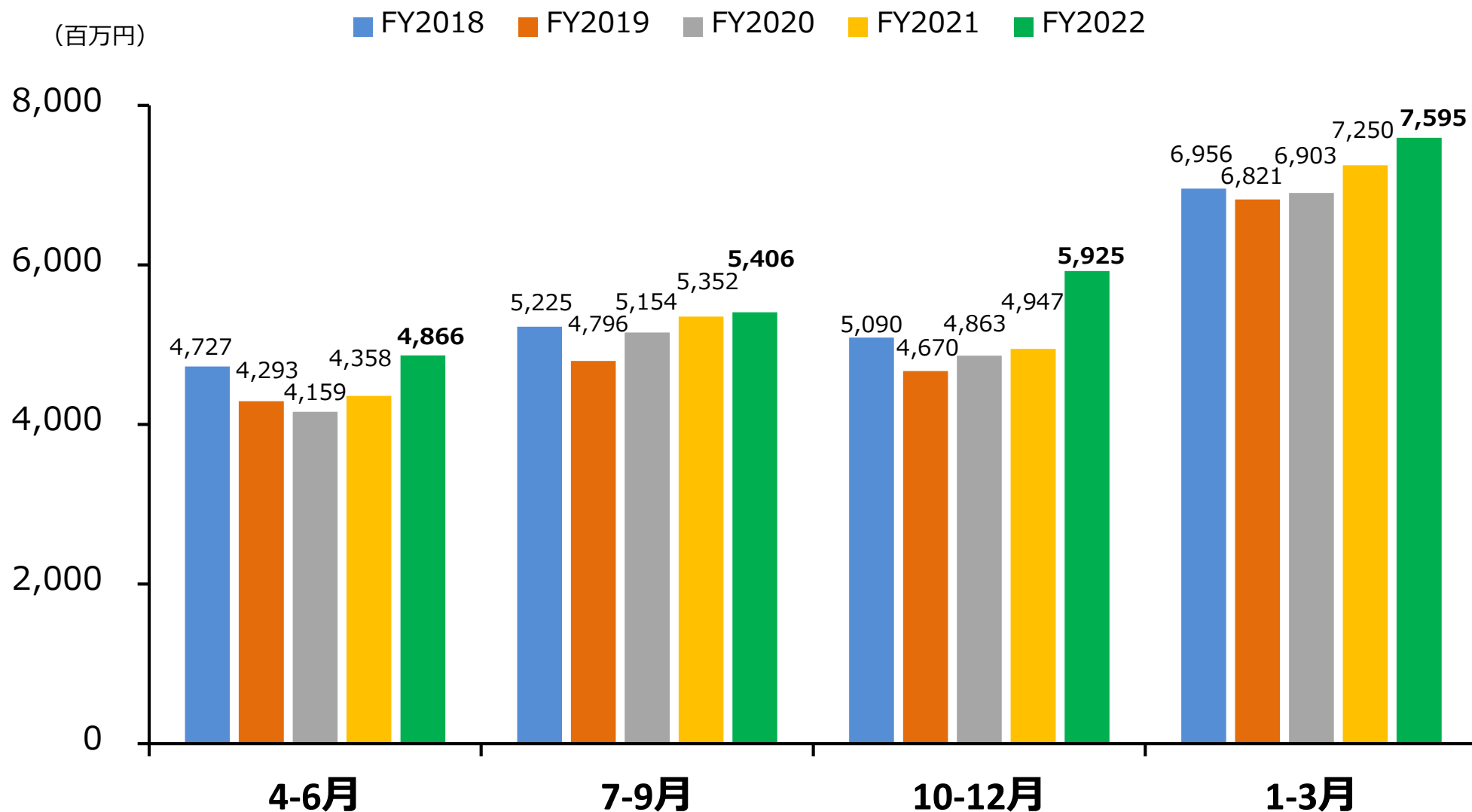
(百万円)

	受注高				売上高				セグメント利益 (営業利益)			
	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)	FY2021	FY2022	増減額	増減率 (%)
計測制御機器	8,669	8,497	▲ 172	▲ 2.0	7,965	8,617	651	8.2	1,168	1,226	58	5.0
計装システム	9,156	11,126	1,969	21.5	6,302	7,131	828	13.2	481	1,015	534	110.9
センサ	7,077	7,481	404	5.7	6,804	7,124	320	4.7	1,304	1,304	▲ 0	▲ 0.1
その他	654	724	70	10.7	836	919	83	10.0	194	232	38	19.7
全社費用									▲ 1,649	▲ 1,760	▲ 110	—
合計	25,557	27,829	2,271	8.9	21,908	23,793	1,884	8.6	1,499	2,018	518	34.6

3) 営業利益増減分析



4) 売上高の推移



5) セグメント別の業績動向 ① 計測制御機器

損益状況

売上高

8,617百万円 前期比 8.2%増



セグメント利益

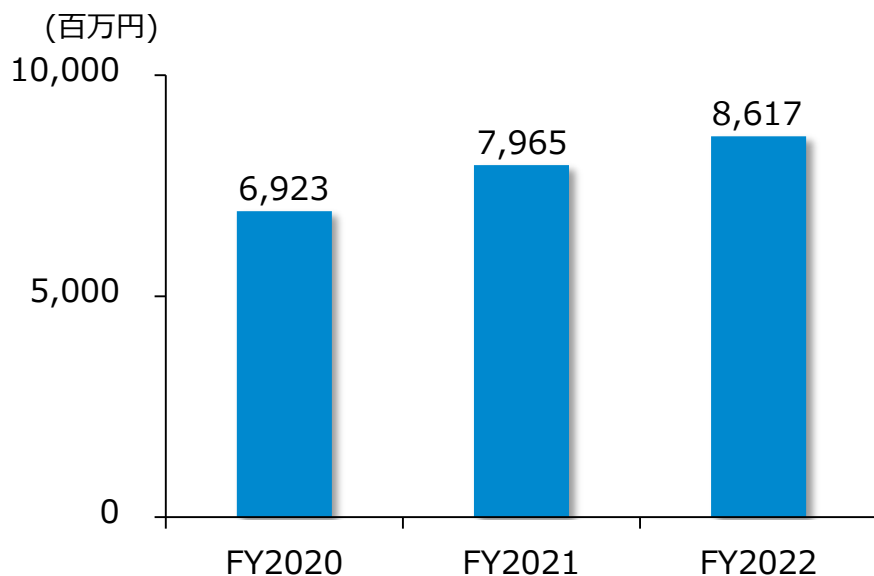
1,226百万円 前期比 5.0%増



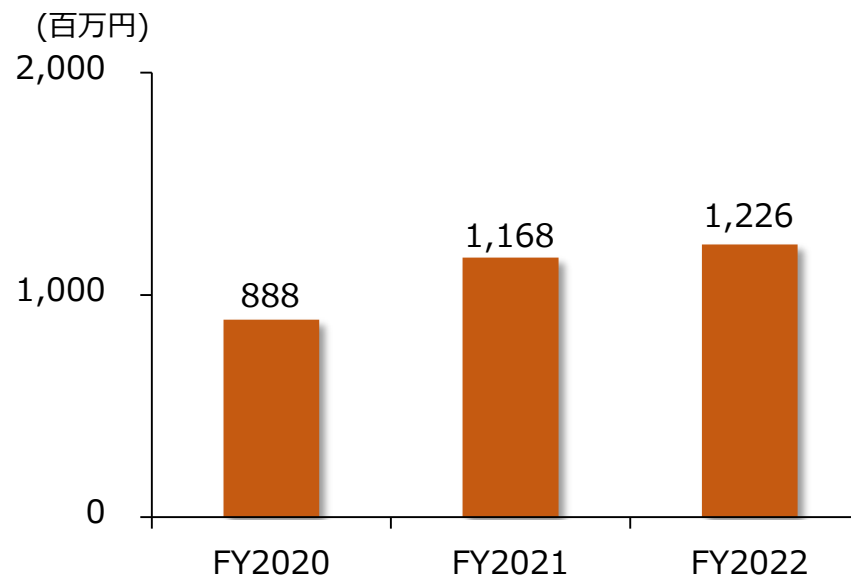
製品別状況

- 半導体・電子部品の製造設備や熱処理装置向けを中心に需要は堅調
- 海外市場（特に中国、韓国、インド等）の需要が伸長
- 前期比では、増収効果を主因とし増益

<売上高>

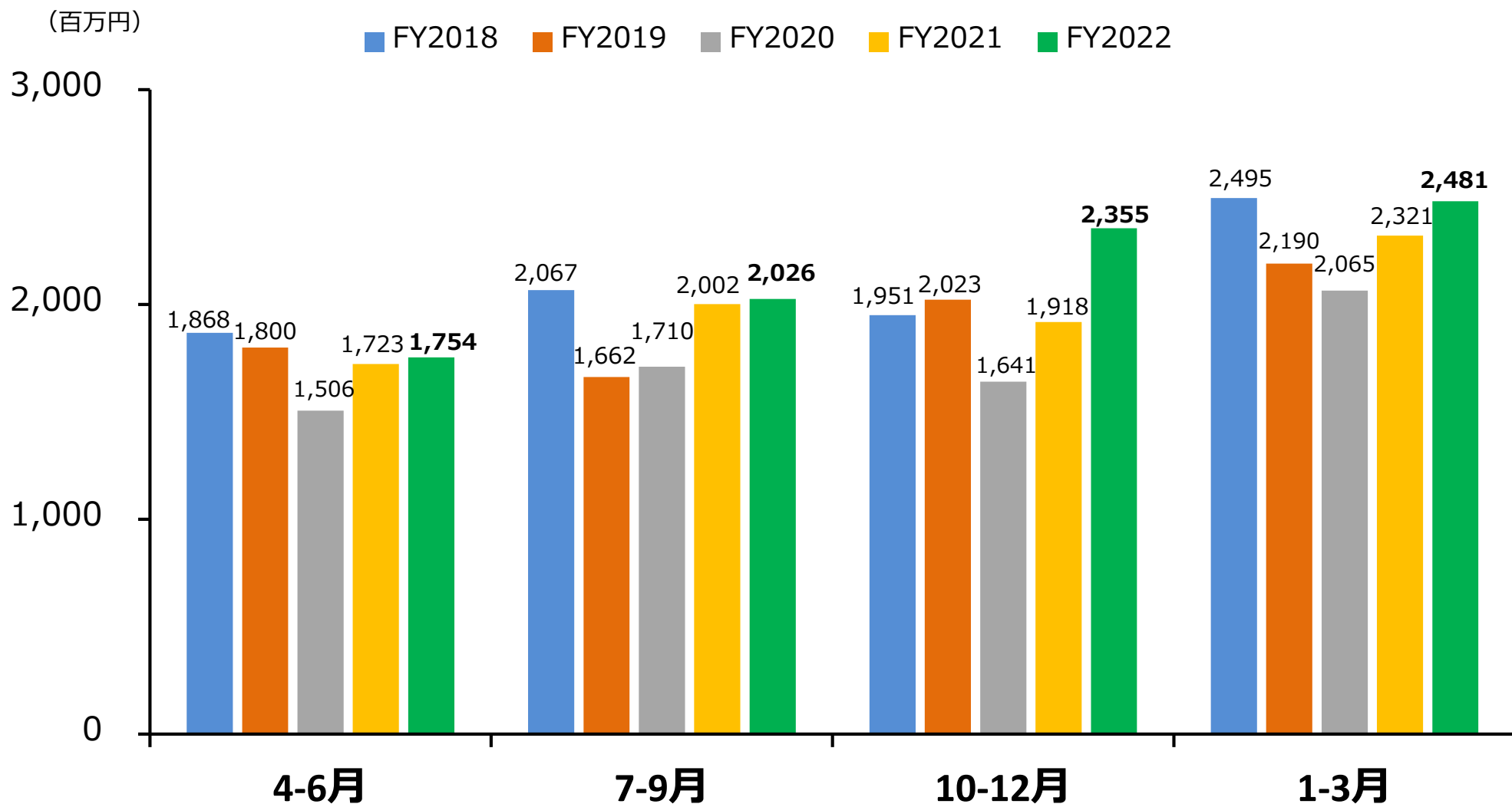


<セグメント利益>



5) 売上高推移

① 計測制御機器



5) セグメント別の業績動向 ② 計装システム

損益状況

売上高



7,131百万円 前期比 13.2%増



セグメント利益

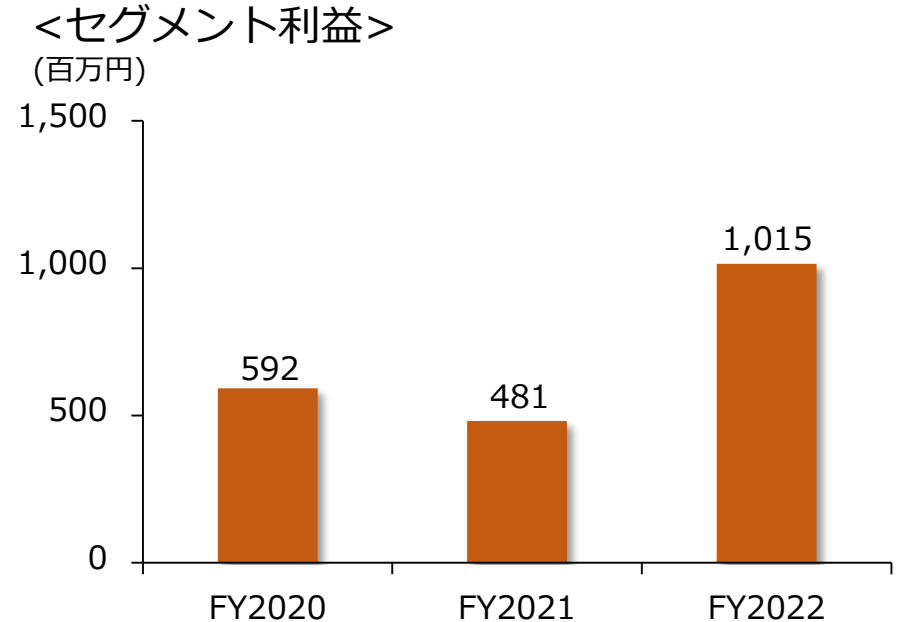
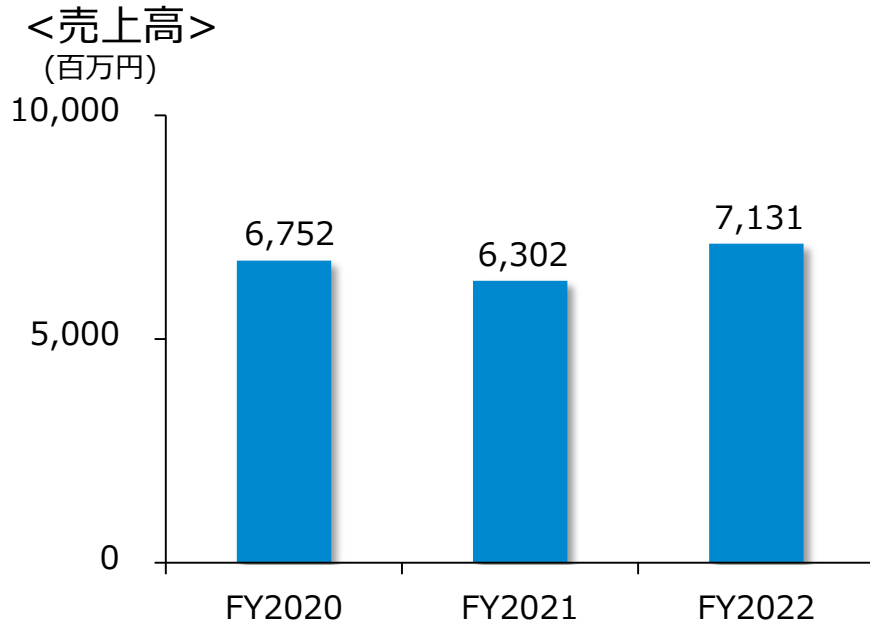


1,015百万円 前期比 110.9%増

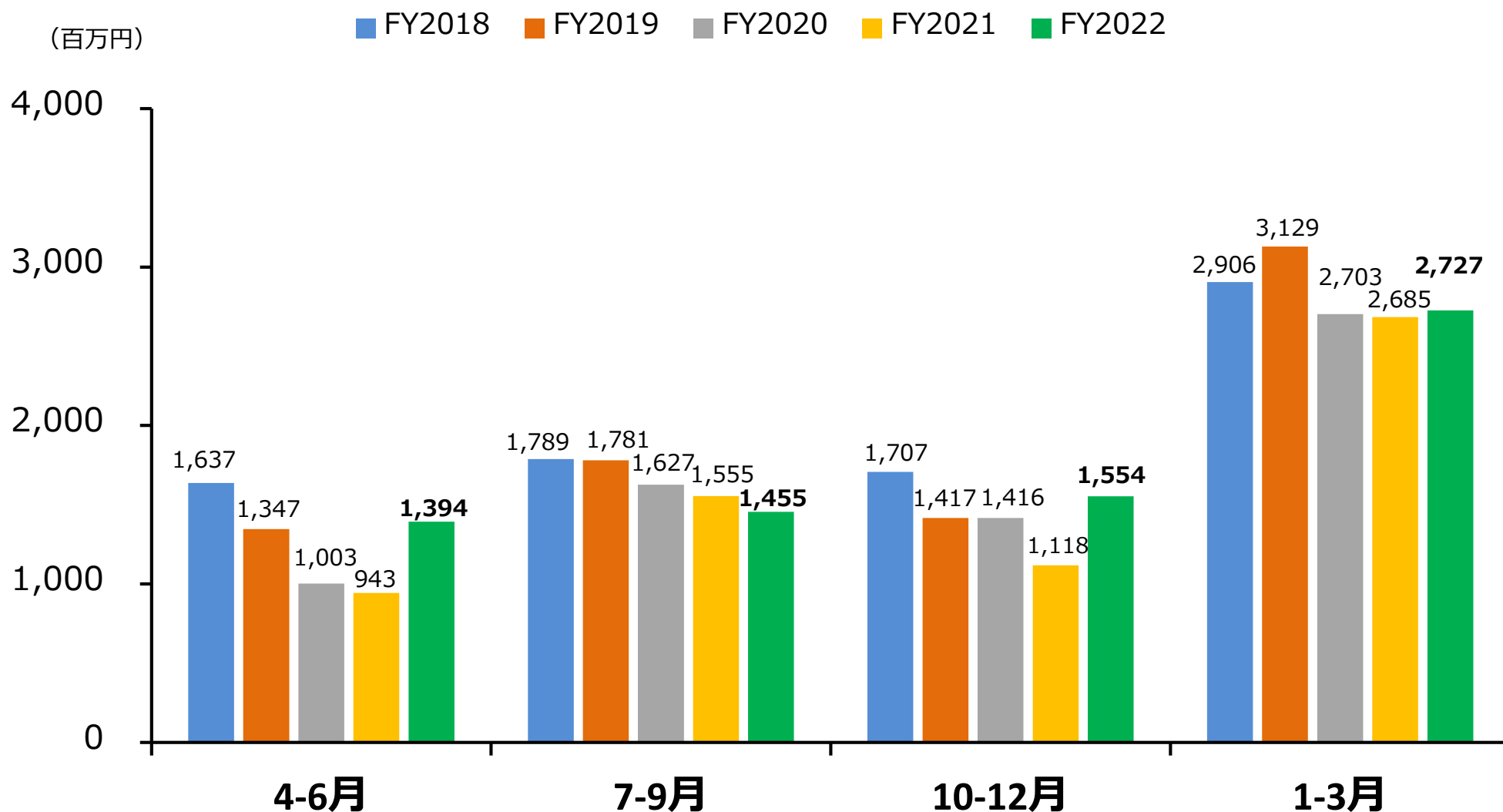


製品別状況

- 脱炭素関連として、自動車向けなどの燃料電池評価試験装置や、水素エネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置の需要が拡大
- コンプレッサー評価試験装置は自然冷媒対応機器の需要により売上高が回復
- 前期比では、増収および原価率の改善等を主因とし大巾増益



5) 売上高推移 ② 計装システム



5) セグメント別の業績動向 ③ センサ

損益状況

売上高



7,124百万円 前期比 4.7%増



セグメント利益



1,304百万円 前期比 0.1%減

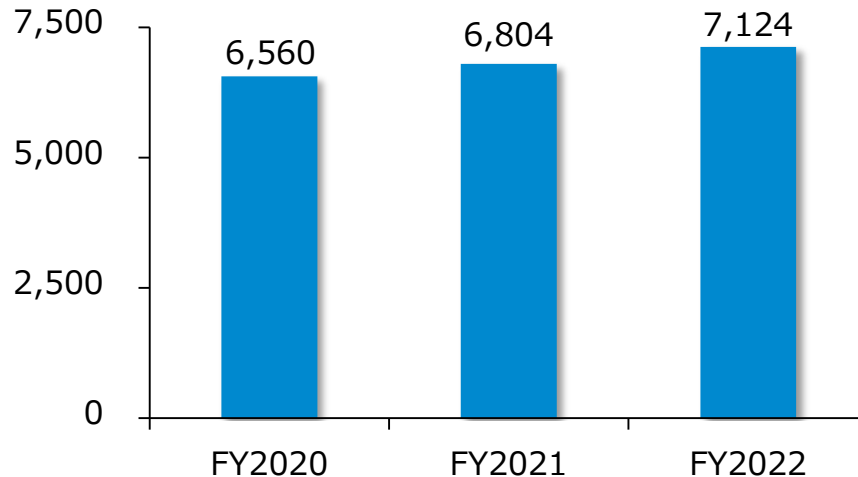


製品別状況

- 放射温度計、温度センサともに半導体関連の製造装置向けを中心に需要が好調
- AMS規格対応の温度センサの需要が堅調 ※AMS規格：航空宇宙産業における特殊工程の規格
- 増収・原価低減・販売価格見直し等により部材高騰の影響を吸収し、利益は前期と同水準

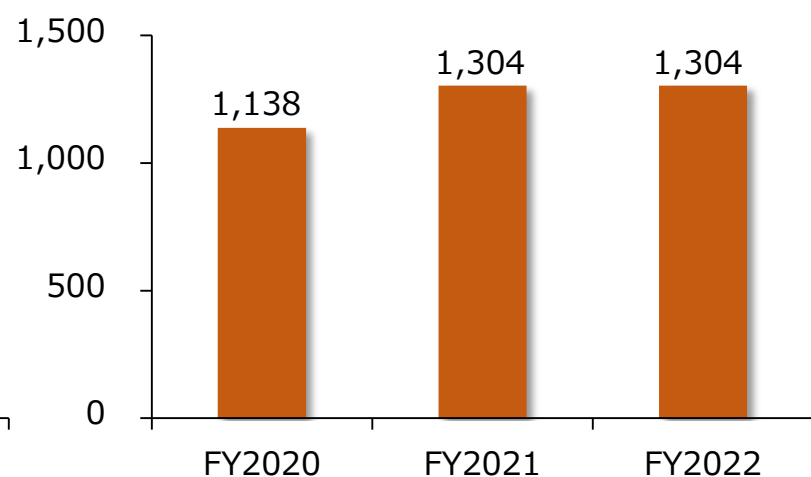
<売上高>

(百万円)

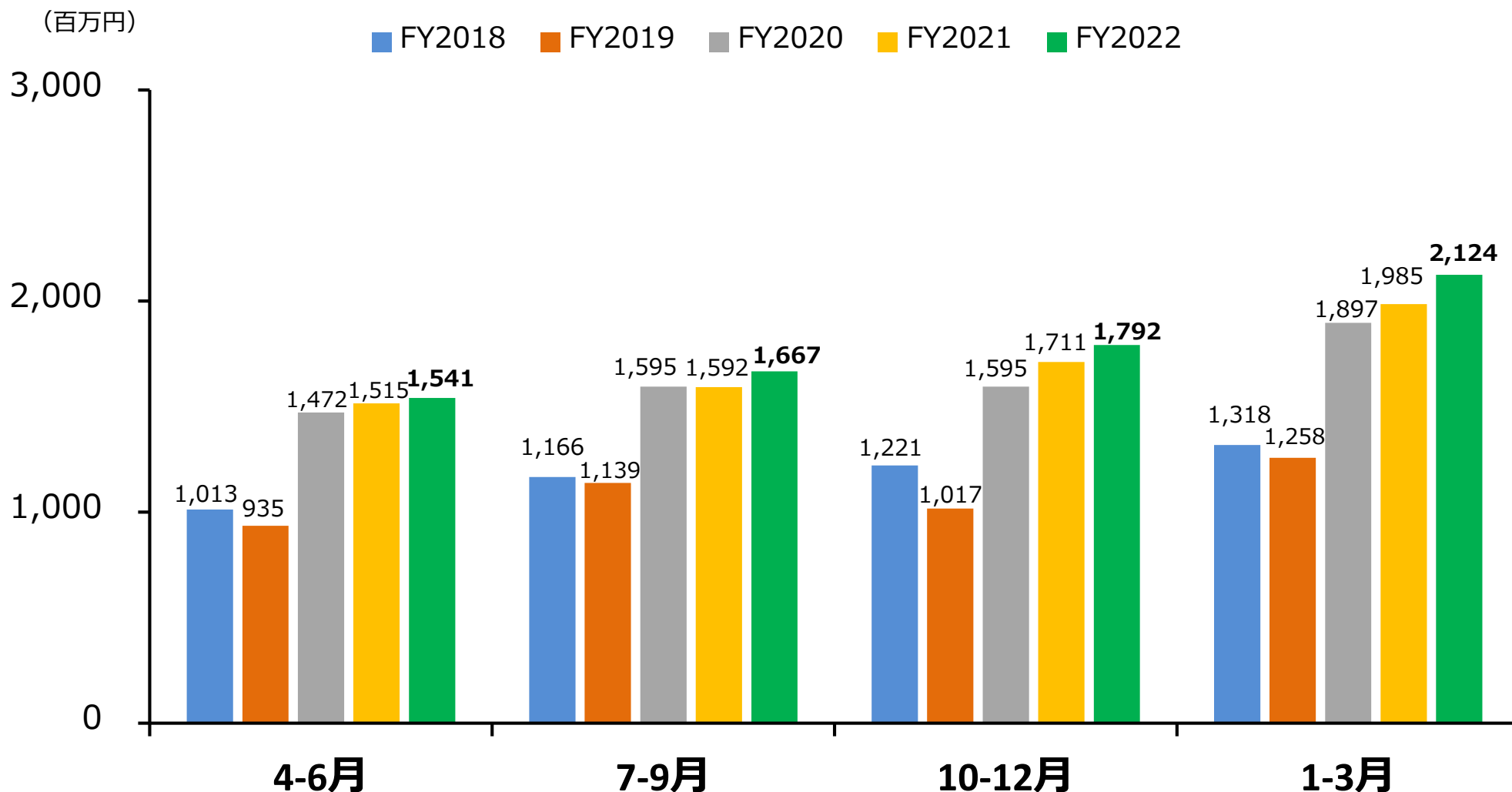


<セグメント利益>

(百万円)



5) 売上高推移 ③ センサ



6) 連結貸借対照表

- 資産 棚卸資産・現預金・売上債権等が増加し、前期末比4,744百万円の増加
- 負債 長期借入金の増加等により固定負債は1,048百万円増加、仕入債務・前受金の増加等により流動負債は2,272百万円増加し、負債合計は前期末比3,320百万円の増加
- 純資産 株主資本の増加等により、前期末比1,423百万円の増加

(百万円)

科目	2022年3月末	2023年3月末	増減
流動資産	21,681	26,322	4,641
現預金	7,331	9,176	1,844
売上債権	7,595	8,281	686
棚卸資産	6,578	8,576	1,998
その他	175	287	112
固定資産	9,864	9,967	102
有形固定資産	5,566	5,578	12
無形固定資産	408	436	27
投資その他の資産	3,889	3,952	63
資産合計	31,545	36,289	4,744

科目	2022年3月末	2023年3月末	増減
流動負債	8,216	10,489	2,272
仕入債務	4,511	5,317	806
短期借入金	1,640	1,724	84
その他	2,064	3,446	1,382
固定負債	3,177	4,225	1,048
長期借入金	620	1,660	1,040
その他	2,557	2,565	8
純資産	20,150	21,574	1,423
株主資本	17,308	18,471	1,163
その他の包括利益累計額	255	312	56
非支配株主持分	2,586	2,790	203
負債純資産合計	31,545	36,289	4,744

自己資本比率：2023年3月末 51.8%、2022年3月末 55.7%

7) 連結キャッシュ・フロー

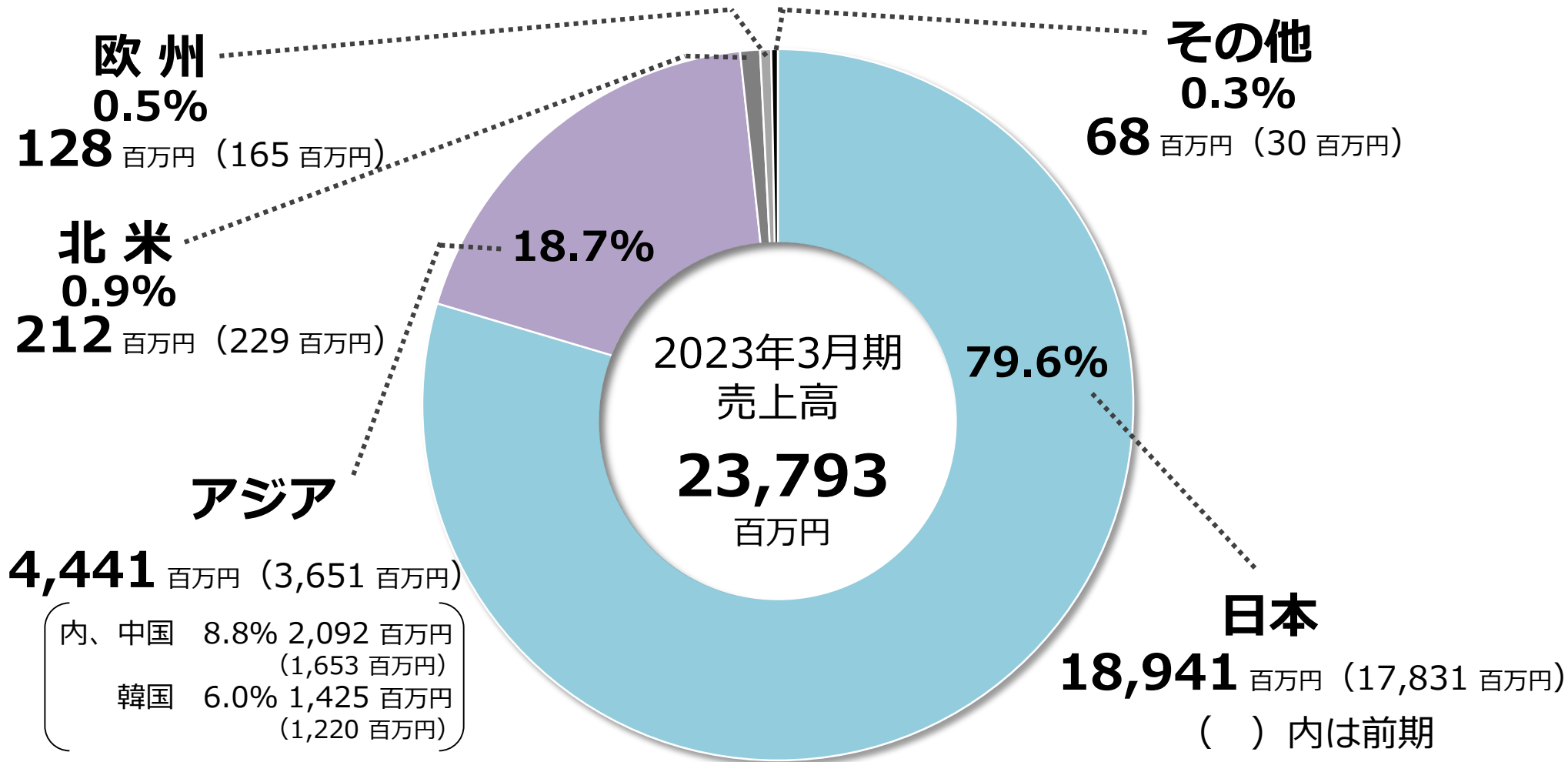
- 営業CF：部材逼迫対策のため棚卸資産が増加したものの、16.2億円（前期比▲2.6億円）
- 投資CF：前期とほぼ同水準の▲5.6億円
上記の結果、フリーCFは10.5億円（前期比▲2.5億円）
- 財務CF：資金調達15億円によりプラスとなり、6.5億円（前期比+16.3億円）

(百万円)

区 分	FY2021	FY2022	増減額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,880	1,619	▲260
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲578	▲564	13
フリー・キャッシュ・フロー (I+II)	1,301	1,054	▲246
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲978	655	1,633
IV. 現金・現金同等物の換算差額	67	71	4
現金・現金同等物増減	390	1,781	1,391

8) 地域別売上高

- 国内売上高は前期比1,109百万円の増収。海外売上高は前期比775百万円の増収
※アジア地域(主に中国・韓国) で790百万円の増収



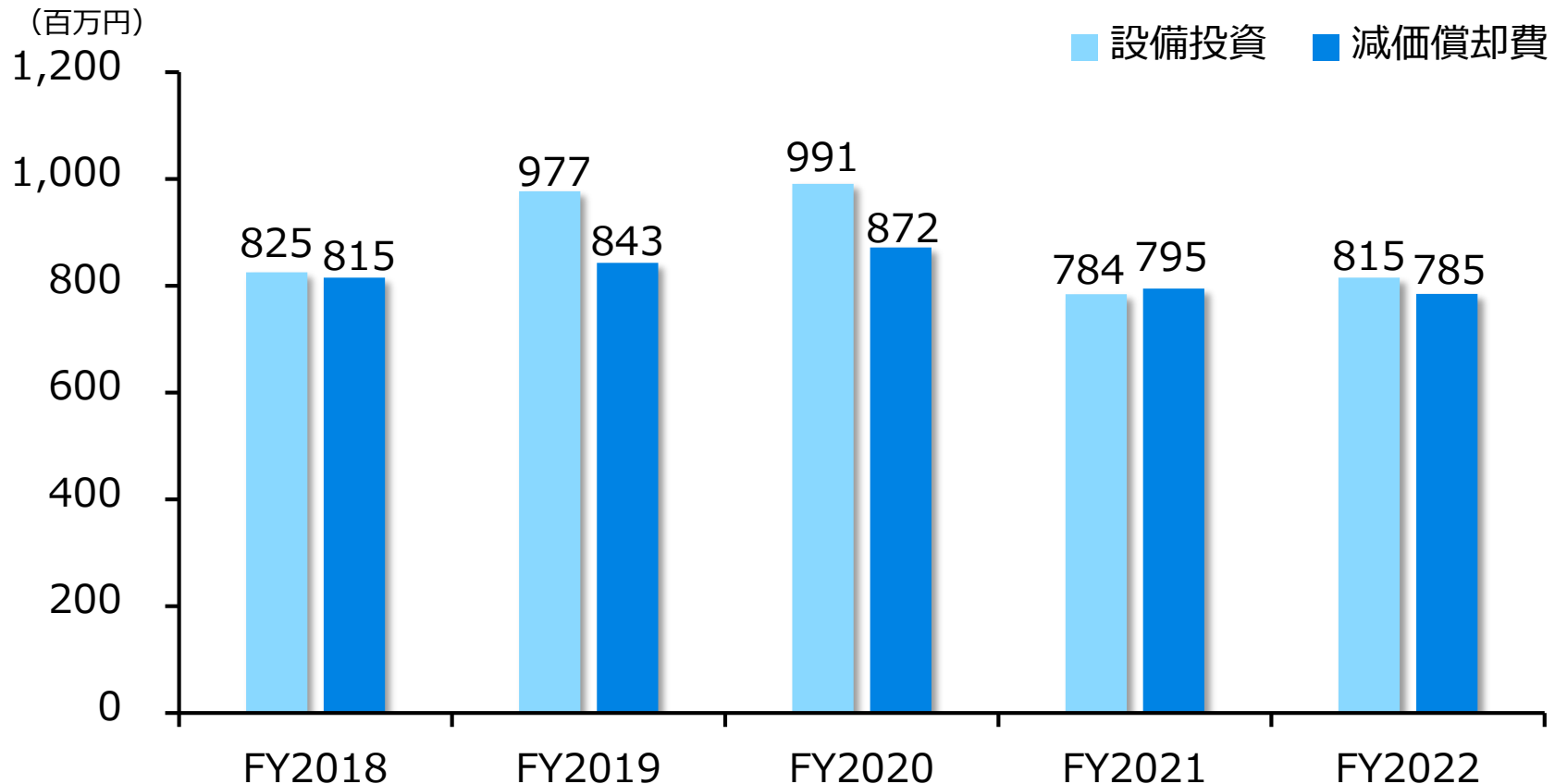
2.設備投資・減価償却費の推移

設備投資・減価償却費の推移（連結）

● 当期の設備投資は815 百万円

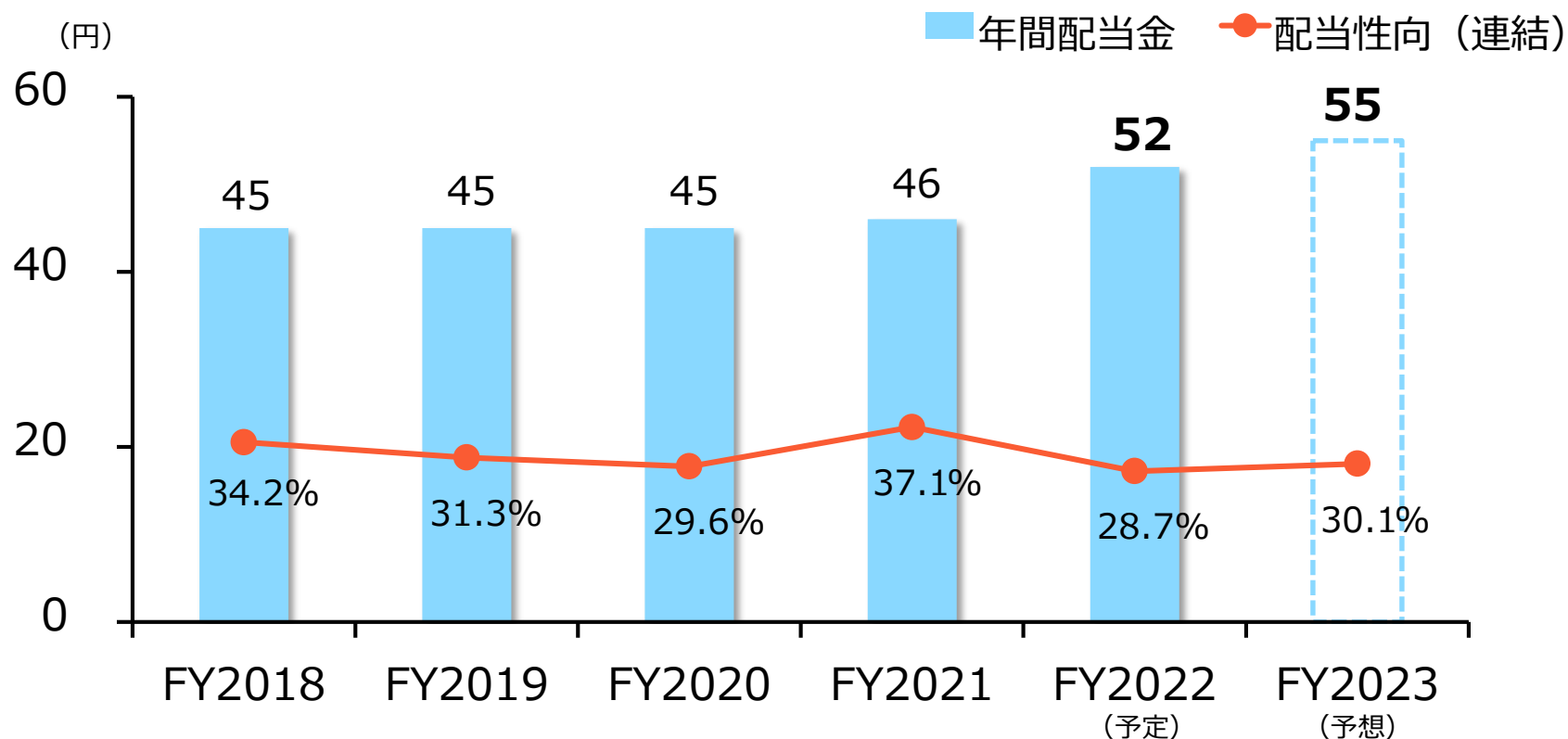
＜主な設備投資＞

- ・ 建物設備更新 205百万円
- ・ 生産効率化 168百万円
- ・ 研究開発 160百万円



3. 株主還元

- FY2022の1株当たり配当金は前期比6円増配の52円を予定。



※自社株式取得：2016年12月～2017年5月に120百万円（100,000株）実施
自己株式消却：2017年7月に300,000株実施

4. トピックス

プライム市場の上場維持基準の適合状況（2023年3月末）

【プライム市場の上場維持基準の適合状況】

- プライム市場の上場基準の内、下記2項目（流通株式時価総額、1日平均売買代金）が未達でしたが、東京証券取引所より夫々「上場維持基準（分布基準）への適合状況について」「上場維持基準（売買代金基準）への適合状況について」を受領し、上場基準に適合していることを確認しました。

項目	プライム市場基準	当社の実績		適合状況 (2023年3月末)
		2021年6月末時点	2023年3月末時点 (※)	
流通株式時価総額	100億円	72.3億円	124.9億円	○
1日平均売買代金	20,000千円	19,843千円	44,672千円	○

※「1日平均売買代金」は、2022年12月末基準

(国内生産拠点の購入電力を100%再生可能エネルギーへ転換)

2022年7月より藤岡事業所における購入電力の再生可能エネルギーに転換が完了
これにより本社・全ての国内生産拠点の購入電力が100%再生可能エネルギーで調達

<事業活動におけるCO₂ (Scope1+2(※))排出削減>

【2022年度見込み】 2020年度対比で約70%の排出削減

【2040年度目標】 事業活動のカーボンニュートラル (事業活動におけるScope1,2
の温室効果ガス排出量完全ゼロ)

※ Scope1 : 自社での燃料使用による温室効果ガスの直接排出量

Scope2 : 自社が購入した電力や熱の使用による温室効果ガスの間接排出量

今後も当社グループはサステナビリティ経営を推進し、事業活動を通じて
「脱炭素社会」と「安全・安心な社会」の実現に貢献してまいります。

5.FY2022の業績予想の達成状況

FY2022の業績予想の達成状況

- 売上高：半導体をはじめとする部材供給不足による影響はあったものの、主要顧客（自動車・電子部品分野等）および脱炭素化に向けた水素関連分野での需要が拡大し、前回予想を上回りました。
- 利益面：増収効果に加え、継続的な原価低減の取組みおよび販売価格の見直しによる効果により、前回予想を上回りました。

(百万円)

項目	FY2022 実績	FY2022 業績予想 (2023年2月9日発表)	増減	増減比 (%)
売上高	23,793	23,600	193	0.8
営業利益	2,018	1,750	268	15.3
経常利益	2,294	1,950	344	17.7
当期純利益 (親会社株主に帰属)	1,536	1,200	336	28.0

6.FY2023の業績予想

FY2023の業績予想

- 部材供給不足やエネルギー価格高騰の継続、各国の金融政策変更に伴う景気の減速懸念や世界的な金融不安等により、先行きの不透明感は増しているものの、主要顧客（自動車・電子部品分野等）および脱炭素化に向けた水素関連分野での需要継続が見込まれ、FY2023の業績予想は前期比増収増益としました。

(百万円)

項目	FY2023 業績予想 (2023年5月12日発表)	FY2022 実績	増減	増減比 (%)
売上高	26,000	23,793	2,207	9.3
営業利益	2,150	2,018	132	6.5
経常利益	2,350	2,294	56	2.4
当期純利益 (親会社株主に帰属)	1,550	1,536	14	0.9

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、当社およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

CHINO